

平成 25 年度 第 1 回三重県文化審議会 議事概要

日 時：平成 25 年 7 月 24 日（水） 午前 10 時 15 分から午後 0 時 15 分

場 所：三重県総合文化センター大会議室

出席者：委員 11 名（秋吉委員、浅田委員、稲垣委員、千種委員、豊田委員、中村委員、速水委員、森委員、山下委員、吉田委員、吉本委員）

（知事あいさつ）

- ・ 諮問の根底にある開催にあたっての私の思いを述べたい。
ニーチェは「感覚を愛しなさい」、「文化を生むのは心」、「文化の本質が施設や手段であると考えることに強く反発しなければならない」、「文化とは感覚が芸術化したもの」と言っている。
- ・ 我々行政は、「論理性」、「公平性」あるいは「ハード」に心を奪われがち。それで本当に県民の皆さんが文化コンテンツを見て感動し、未来に向けて前に進もうと思うのか。やはり鋭い感覚や心がしっかりこもっていないと感動や意欲を人に与えられない。
- ・ 26 年 4 月に三重県総合博物館を開館するが、ハードができたから終了ではなく、感覚や心を込めていかなければならない。三重県の文化全体にそういう思いを研ぎ澄ますことが大事。
- ・ 私は三重県や三重県民が大好き。これから 10 年後、20 年後も誇り高く、いきいきと生きてほしい。今、文化全体は多様化と画一化の狭間にある。そのときに大事なアイデンティティ。三重県でこれから何を大事にしていかなければならないのかを考える際にもアイデンティティは大事。
- ・ 三重県民が誇り高く生きていくためにアイデンティティをしっかりと確認しながら、心をこめて感覚を研ぎ澄まして生きていく、そんな三重県にしたい。
- ・ あのと時の文化審議会が三重県の文化を変えた、三重県民のアイデンティティを確立したと言われるようなものになるよう、夢は大きく持っているので、よろしくご審議をお願いしたい。

（会長・副会長の選出）

会長に速水 亨委員が、副会長に豊田長康委員が選出された。

資料 2（文化交流ゾーン検討部会の設置）

（委員）

- ・ 文化交流ゾーンに興味があるので、検討部会の委員に立候補したい。
→ 了承。

(委員)

- ・ 10年ほど前に3つの文化施設（総合文化センター、美術館、博物館）の連携が検討されたようだが、まとまらなかった経緯がある。方針の実現性を高めるためにも、検討部会には、各施設の長も参画する形にしてほしい。
→ 事務局として参画していただく形で対応したい。

(委員)

- ・ 魅力的な施設がたまたま近くにあるという捉え方をした方がよい。
- ・ 一つでも魅力的な施設があれば行きたくなるし、誇りも持てる。個々の施設に魅力がないとゾーンごと魅力がないものになってしまう。
- ・ 検討部会には、マネジメントができる、魅力的な意識を持った方に集まっていたきたい。

資料4（現状認識と今後の施策の方向性（総論））

(委員)

- ・ 資料4の「文化を消費する人より、文化をつくる人の方が増えている」という表現に若干違和感がある。
- ・ 施策の目標が満足度の向上となっているが、それでいいのか。満足しないから、何かを創っていかうということにもなるのではないか。

(委員)

- ・ 文化は単なる楽しい、消費するという部分もすごくある。特に若者はそういう感覚が強い。何かためになるとか、文化的なことでプラスを与えてあげるという観点が中心になると、そっぽを向かれる。
- ・ ゆるキャラもB級グルメも高校野球も文化。そういう要素をどう取り入れていか、行政との折り合いでどういう部分が考えられるのか。
- ・ 三重県の公のデザインは洗練されていないという話しには深い意味があると思うし、三重県出身であることをマイナーと捉える若者の感覚も少しにじませられないかと思う。

(委員)

- ・ 三重県は文化が何となく弱いと言われてきた中で、新しい博物館の整備を契機に文化交流ゾーンをつくることには賛成。伊勢神宮という昔からの聖地がある中で、津に文化交流ゾーンをつくることに意味がある。
- ・ 三重県には三重県独自の文化がある。伊勢神宮にたくさんの人がお参りにきて街道文化が育まれてきたし、式年遷宮の継承を通じて文化も継承されてきた。

- ・ これまで行政は神社関係のことには触れにくかった面があると思うが、今回の諮問文でも「常若」という言葉を出されたように、三重県独自の文化を育んできた伊勢神宮の精神を取り入れることも重要ではないか。

(委員)

- ・ 子どもたちがよりよい豊かな文化に触れるための環境を整えるためには、それを支援する保護者の文化に対する考え方、思いが大事。保護者の世代に働きかけるための広報活動や魅力発信が大事になってくる。
- ・ 学校でも国のいろいろな事業を活用して子どもたちの視野を広げたり、豊かな心を育む取組を行っているが、予算の多くかかるものは県内でも数校しか認められないのが現状。学校現場で豊かな文化に触れる機会をもっと作るとか、子どもたちが文化施設に足を運ぶ機会を作るなどの取組が必要ではないか。
- ・ 子どもたちを取り巻く環境にどのように文化の要素を取り入れていくのかが、次代を担う子どもたちを育てる上で重要である。

(委員)

- ・ 今回の方針で対象とする「文化」はできるだけ幅広く捉えていただきたい。いま文化振興は「文化」のためだけのものではなくなってきている。文化振興は行政全体のイノベーション（革新）につながるものという打ち出し方をしてもいいのではないか。
- ・ 現行の方針策定から5年経っているが、文化振興に係る基本方向が5年で変わっていいのかという気もするので、踏襲すべきことは踏襲したうえで、方針には是非具体的なことを書いてほしい。

(委員)

- ・ 今回の資料はどこかの県に持って行っても通用するような最大公約数的な内容。三重って何かという根底的なものにはまだ触れられていない。
- ・ 富士山が今回世界文化遺産に認定されたが、それは自然遺産としてではなく、日本人の心のあり様やさまざまな文化・芸術に与えた影響も含めて文化遺産として認められたもの。そこに「文化」の意義がある。
- ・ 中世には中央の政治行政が行き詰った際、熊野詣が行われ、当時の人びとは形にならない啓示を得た。熊野の意義は、老若男女、権力者・庶民に関わらずすべて受け入れてきた懐の深さにある。
- ・ 熊野の底力を継承する人びとに自信をもっていただき、熊野の文化をもっと肉付けしていければいいのではないか。
- ・ この審議会の議論が成功すれば、行き詰っている今の日本の指針にもなるのではないかと思っている。熊野は古来中央が行き詰まったときの指針を示してきた場

所。どこの都道府県でも通用するような方針を作ったというのではなく、ここ（三重・熊野）は爆発力、起爆力を持っているんだということを意識してほしい。

（副会長）

- ・ 東京に3年住んでいたが、やはり文化的な水準は非常に高いと感じた。しかし、三重県に総合文化センターがある意義は大きい。東京に比べれば小さな文化かもしれないが、絶対になくしてはならないと思っている。
- ・ 予算は厳しいと思うが杓子定規に削減するのではなく、三重県の文化をどのぐらい振興していけばいいのかを考えて措置してほしい。
- ・ 県外のお客さんが伊勢神宮や熊野に行く途中で、ぜひ、津にも立ち寄っていただけるような文化交流ゾーンにしてほしい。そのことを数値目標としてほしいとも思う。

（委員）

- ・ 日本は自然災害が多く、資源の少ない、住むには劣悪な国だったが、結構いい国になってきている。その歴史はこの紀伊半島（熊野と伊勢）に集約されているといてもいい。三重県にそのような熊野と伊勢があることが重要。やはりそれらを中心にやっていかなければならない。
- ・ 県外から来た人に文化交流ゾーンに立ち寄っていただくことは面白い構想だが、熊野や北勢の人がどれだけ来て利用してくれるのか、誰のための文化振興なのかを考えなければならない。
- ・ 歴史的な意味で「文化力」のある所は、中央から離れている所が多い。中央から離れていることにも意味があるのではないか。
- ・ 5年、10年の構想を立てる場合は、是非、柱になるようなものを見つけてほしい。
- ・ 文化は本来的には民間が勝手にやればいいことだとは思いますが、行政はそのための環境整備に手をさしのべるのが大事。
- ・ 県民が夢を感じられるような仕掛けづくりができればよい。

（委員）

- ・ 先ほど文化交流ゾーンを構成する文化施設の年間利用者数が118万人という話があったので驚いた。これまで友だちや近所の人たちが博物館や美術館に行ったという話はあまり聞いたことがなかった。
- ・ 博物館や美術館などの文化施設はやはり少し敷居が高く、遠い存在で、いつもあそこに行こうというスポットではないと感じていたが、実際に来てみると楽しいし、勉強になるなどたくさんいいことがある。
- ・ 文化施設が生活に身近なものになるにはどうすればいいのかと思うし、また、子どもたちにもっと活用してもらえばいいのではないかと思う。

(委員)

- ・ 岡田文化財団は約 30 年にわたって、公立・民間を問わずさまざまな文化施設に寄附をしてきた。今後方針の推進にあたって、いかに個人や法人に協力してもらえるか。アメリカでは民間財団の活動が中心で政府はあまり関与しないということだが、三重県でもそういう風土が根付くようにしてもらえればと思う。
- ・ 出雲大社がご遷宮が終わった後も大変な賑わい。三重県でもご遷宮を機に、主たる文化施設と一緒に協力しようという機運を高めていくことが大事。文化交流ゾーン検討部会でしっかり議論していきたい。

(知事)

- ・ 本日いただいた意見を整理すると概ね 5 つのカテゴリーに分けることができると思う。一つめは、伊勢や熊野などコンテンツの話、二つめは、どこでも通用するものであってはならないとか、いろんな分野と連携すべきであるとか、具体的なアクションを書くべきであるといった方針のあり方のこと、三つめは、ターゲットとプレーヤーの話で、どういう人にどうするのか、あるいは岡田文化財団の話があったが誰がやるのかということ、四つめは、広報や予算など事業のあり方、そして、五つめは、それらをチェックする指標のこと。
- ・ これからどういう風に反映させていくのかは、今後よく事務局で議論させていただくが、中身がいいものでなければ意味がないので、お示ししたスケジュールに関わらず、場合によっては何回も開催させていただきたいし、集まってではなくても、メールでやり取りしたり、事務局の職員が皆さんと膝づめで議論させていただいたりしたい。
- ・ どこの都道府県でも通用するような方針ではなく、かつ、幅広い分野にインパクトを与えるものでありたいという方針のあり方の根幹についてご意見をいただいたと思うので、今後ともご協力をお願いしたい。
- ・ 今回は総合文化センターを知っていただくということもあり、この会場で開催したが、次回は文化を議論するのにより相応しい場所で開催したい。

(会長)

- ・ 「文化を広く捉える」という意見があった。前の知事が 50 年後の三重の姿を議論するということで、私も委員として関わったが、日本文化デザインフォーラムが提言をまとめている。今となれば、各委員の専門が強く反映したことを提言しているが、参考になる部分があるかもしれない。
- ・ 三重県には各地で、県とは関わりなく、文化的な活動を行っている団体がある。また、中村委員がおっしゃった岡田文化財団など文化を支える組織があるので、事務局はそれらについても注意してほしい。